

RESULTS JAPAN ANNUAL REPORT



12

December

令和2年度
事業報告書

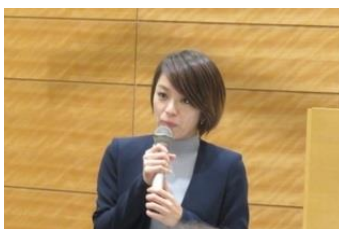
2020 年 12 月 1 日

今井絵理子議員

昨日のブログで今井絵理子議員が、参議院本会議で手話を使って質疑をされたことを取り上げました。

今井先生は、第 5 回国際母子栄養改善議員連盟から事務局次長をなさっていますので、第 4 回の議連での初登場から第 9 回の議連までの写真を紹介いたします。

2016 年 8 月 2 日 第 4 回国際
母子栄養改善議員連盟



2016 年 11 月 18 日 第 5 回国際
母子栄養改善議員連盟



2017 年 3 月 13 日 世界の母
子栄養改善のための国際機関
邦人職員増強と、政府、NGO、
大学で連携すべきこと



2018 年 1 月 25 日 議連合同による栄養シンポジウム



2018年11月12日 第6回国
際母子栄養改善議員連盟



2019年2月14日 第7回国
際母子栄養改善議員連盟



2019年12月3日 第8回国際
母子栄養改善議員連盟



2020年3月4日 第9回国際
母子栄養改善議員連盟



2020 年 12 月 3 日

GGG+小フォーラムの会場

12 月 17 日(木)に開催される、GGG+小フォーラムの会場”GYOZA IT.”の写真です。

外観は全面ガラス張りで、とてもおしゃれなので、特に女性に人気があります。

”GYOZA IT.”では、とても広い空間で美味しい餃子をリーズナブルな価格で堪能することができます。



国際開発ジャーナルに

GPE オルブライト事務局長の記事

国際開発ジャーナル 12 月号に教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)のアリス・オルブライト氏の記事が掲載されましたので紹介いたします。



オーダーメイド医療

個々のがん患者の遺伝子の違いに応じた治療(個別化医療)の先駆けになった中村祐輔氏の記事が、毎日新聞に掲載されていました。

日本リザルツの浅野理事長は、代表白須に日頃より中村祐輔先生のことをよくお話になられておりました。



2020年12月6日

国連で新型コロナ特別総会開催

新型コロナウイルス問題が各国で深刻化しています。

こうした事態を打開するため、12月3日～4日にかけて、国連で新型コロナ特別総会が開催され、約130か国の代表が未曾有の危機を乗り切るための議論を行いました。

日本からは菅総理大臣が出席され、来年の栄養サミットに向けた力強いメッセージを発されました。

スピーチによると、菅総理大臣は、将来の健康危機への備えには、保健医療システムの強化が重要であることを述べられた上、日本が、アジア・アフリカを中心に、感染症対応の中核となる医療施設を整備し、施設同士の連携促進や、人材育成を行うことで、地域全体の保健医療システムの基盤を強化していることを説明されました。また、感染症に強い環境の整備のため、栄養、水、衛生といった分野横断的な取り組みを、民間セクターとも連携して推進していることを紹介されました。

その上で、菅総理大臣は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、栄養不良が深刻化していることを指摘。日本が、来年12月に「東京栄養サミット」を開催するとして上、世界的な栄養改善に向けて尽力していく旨を、宣言されました。

栄養サミットの開催まで丸一年。菅総理大臣の更なるリーダーシップの発揮を期待しています。

2020年12月8日

国際開発ジャーナル記事

12月3日のブログで、国際開発ジャーナル12月号にGPEオルブライト事務局長の記事が掲載されたことを紹介しましたが、同誌の「視点」に、リザルツが仲良くしていただいている(公財)ブラン・インターナショナル・ジャパン理事長の池上清子氏の寄稿が掲載されていましたのでこちらも紹介します。

「高齢者へのサービスとアクセス確保を」と題された記事で、コロナ禍での開発途上国の高齢者医療について、今後の展望を寄稿されています。



国際連帯税の創設に向けた寄稿

「ポストコロナの針路：新しい政策科学としての国際連帯税」6月の会議にてお会いした石橋通宏参議院議員の記事が、国際開発ジャーナル12月号に掲載されております。

石橋先生は国際連帯税の創設を求める議員連盟の事務局長を務められています。寄稿では、国際連帯税の創設に向けた日本の動きと議連の活動を紹介した上で、新型コロナウイルスの発生で、安全なワクチン開発等への対応に相当額の資金が必要であることを指摘。その上で、「地球規模課題に対応するためには、継続的かつ安定的に資金を確保する国際的な体制」を構築する必要があると述べられています。

「なぜ、当初の計画通りに進まなかったのか」「何故、断念に追い込まれたのか」冒頭の働く人の視点でのコメントはとても説得力があります。尚、石橋先生には、日本リザルツの白須代表、田中理事はじめ、国際連帯税の件で、大変お世話になっております。



2020年12月10日

GGG+小フォーラムの準備

現在東京オフィスでは、12月17日(木)に開催する GGG+小フォーラムに向けて、着実に準備を進めております。

下の写真にある看板と横断幕、名札等を、日本リザルツの大応援団、田島様が丁寧に作成してくださいました。

フォーラムの大成功に向けて残りの一週間は入念な準備をすすめていきます！



コロナワクチン接種「国の貧富問わず供給を」

イギリスで新型コロナウイルスのワクチン接種が開始される中、先進国と途上国の間でのワクチン確保の競争が進んでいます。

グテーレス国連事務総長が、「ワクチンは人類の公共財であるべきだ」と強調しています
が、日本の協力のもと、WHO や Gavi ア
ライアンスが作った COVAX ファシリテ
イという仕組みは、果たして機能するの
でしょうか。今後も動向を注視していきたい
です。



2020 年 12 月 13 日

WFP 事務局長デイビッド・ビーズリー氏の 読売新聞への寄稿

12 月 11 日付の読売新聞に WFP 事務局長のデイビッド・ビーズリー氏の寄稿が掲載されたので紹介します。

「今日の飢餓の大半は、自らが引き起こした痛みだ」から始まる寄稿ですが、日本の貢献にも言及され、最後に「私たちは最終的に団結し、飢餓のない世界を構築できるのではないか」と結んでいます。

ビーズリー氏は、今年の GGG+フォーラム@TICAD7 にもお越しくださり、発言をされました。

紛争・干ばつで飢餓が深刻になっていることから、WFP の資金対象は広がり、資金難が問題となっています。

日本リザルツが応援している UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)と WFPが行っているパレスチナ難民への緊急支援は今月末までということです。難民はどうなってしまうのか、心配です。



ADB が更なるコロナ支援を実施

新型コロナウイルスのまん延が、依然として続く昨今。中でもリソースの確保が課題となっています。こうした中、アジア開発銀行(ADB)が興味深いニュースを発表しました。具体的には、開発途上加盟国が効果的かつ安全な新型コロナウイルスワクチンを迅速で公平な方法で調達・提供できるよう支援するため、ADB が、アジア太平洋ワクチンアクセスファシリティ(APVAX)と呼ばれる 90 億ドルのワクチンイニシアティブを立ち上げるということです。

ADB と日本は深い縁があります。立ち上げから日本の大蔵省(現・財務省)が深く関わっており、これまでの総裁はすべて大蔵省→財務省出身、出資も日本が多くを占めています。現総裁の浅川氏も財務省出身で、どーらも非常にお世話になりました。

新型コロナウイルスのまん延が、依然として続く昨今。中でもリソースの確保が課題となっています。こうした中、アジア開発銀行(ADB)が興味深いニュースを発表しました。具体的には、開発途上加盟国が効果的かつ安全な新型コロナウイルスワクチンを迅速で公平な方法で調達・提供できるよう支援するため、ADB が、アジア太平洋ワクチンアクセスファシリティ(APVAX)と呼ばれる 90 億ドルのワクチンイニシアティブを立ち上げるということです。

浅川総裁のリーダーシップのもと、ADB が国際保健の改善に向けて更なるリーダーシップを発揮してくださることを期待しています。

2020 年 12 月 14 日

ワクチンは公平に分配されるのでしょうか…

イギリスに続き、アメリカでも新型コロナのワクチン接種が始まりました。コロナワクチンの 80%は富裕国によって、すでに占有されていると言われています。一方、世界人口の 80%以上を占めている新興国は、資金力で劣るため、国民の 9割が、来年接種を受けられない可能性があるということです。果たして全世界での公平なワクチン分配は実現されるのでしょうか。



ケニアに期待

アフリカ経済の成長性、多様性は、コロナ禍でも、世界から期待されているようです。なかでも、ケニアはアフリカ経済において指導的役割を果たしてきているようです。これまで、JICAの支援により 8,000 人を超えるケニア人が日本国内で訓練を受けたということです。また、モバイル送信技術や携帯電話普及率の高さ、ヨーロッパとアフリカ諸国との強力な市場アクセス性を活かし、良好な貿易関係を築いているようです。

日本政府、日本リザルツが特に力を注いだケニアが、世界から期待されているということは、とても素晴らしいことだと思います。



里を離れて働く人々

朝日新聞に、移民問題に関する記事が掲載されていました。インドからイタリアへの移民の暮らしが窮地におかれていることや、セネガルからスペインへの移民に起こった強制隔離について紹介されています。

セネガルからスペインへ移住した 300 人の移民労働者たちは、同じテントで一緒に暮らし、農業で稼ぎ、母国の家族へ送金していました。しかし、7 月半ば、2 人が新型コロナに感染すると、感染していなかった人まで働けなくなり、建物も解体されてしまったようです。そればかりでなく、失業者が増えたことで、移民(セネガル人)がスペイン人の仕事を奪っているという苦情が多くなったようです。

インドからイタリアへ移った労働者たちは、イタリアで感染が広がり、ロックダウンが起こった際、移民労働者だけは休むことを許されなかったそうです。

コロナのような長期的な経済不況の場合、紛争をはじめ、人と人との溝が深くなるのが、よくあります。

弱い立場の人を思いやり、全員が幸せになれるような手段を考えられればと思います。



総合学術雑誌 Nature への記事掲載

総合学術雑誌 Nature に、日本リザルツの記事が掲載されました！

記事内ではケニアでの栄養教育活動を通じて、意識啓発の重要性を指摘。その上で、成長のための栄養(N4G)サミットに向けて、日本の知見を活かした取り組みの推進を訴えています。

ネイチャー・リサーチは、世界の科学コミュニティーに役立つ質の高いジャーナル、オンラインデータベース、研究者向けサービスといった商品やサービスを、生命科学、物理科学、化学、応用科学の広範な分野において提供しており、1869年に創刊した Nature は、世界有数の週刊科学誌です。

日本リザルツの記事は、「Sponsors」⇒RESULTS ロゴ下の「Read advertisement feature」から閲覧可能です。

記事 URL : <https://www.nature.com/articles/d42473-020-00410-7>

Outlook コレクションにも日本リザルツの広告が掲載されています。

<https://www.nature.com/collections/fibbgbiebc>

日本リザルツへのお届け物①

本日、東京オフィスには沢山のお届け物が届きました。

Nature の雑誌二点です。職員の長坂が寄稿した日本リザルツの記事が見開きで掲載されています。



こちらは GPE の冊子です。



そして、最後が新しいリザルツのクリアファイルです。



日本リザルツへのお届け物②

STOP TB の竹中様からも、STOP TB のマスク、ピンバッジ、シールのプレゼントを送っていただきました。

こちらキティちゃんの可愛いマスクを着けている職員の伊東です。とても似合っています！



ニプロ、透析用人工腎臓に更なる投資

12月12日(土)付けの日本経済新聞に、ニプロの記事が掲載されたので紹介します。

ニプロの製品「ダイアライザ」は、高性能で多くの患者にとって使いやすく、世界シェアは全体の約2割で第2位です。ニプロは2026年までに、透析用人工腎臓に1,000億円以上を投資することを決めました。ベトナムから東南アジア、インドや中国でも増産する見込みです。



2020年12月16日

SDGs 3 (健康) ギャップ 40 兆円 > リーディング・グループの報告書公表される

1) 「保健のための革新的な資金調達メカニズム：マッピングと提言」公表される

「開発のための革新的資金調達に関するリーディング・グループ」(常設事務局：フランス外務省)が11月末に報告書「保健のための革新的な資金調達メカニズム：マッピングと提

言」を公表しました。(報告書はフランス外務省の HP に掲載されています。URL:“Innovative financing mechanisms for Health: Mapping and Recommendations”)



報告書では、新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックにより、途上国が危機によって増大した巨大な開発資金ギャップを満たすための追加的な資金源の必要性が述べられ、それが先進国の ODA 予算や途上国の国内資源に加えて、開発のための革新的な資金調達の可能性に光を当てています。コロナが発生する前、SDG3「健康と福祉＝保健」を達成するための年間資金ギャップは、すでに低・中所得国(LMIC)で 3,710 億ドルと見積もられていましたが、パンデミックによりそのギャップが更に広がっていることが予想されています。

報告書は、保健に関する SDG3 に対応する 42 の主要な革新的資金調達イニシアチブを次の 5 つのカテゴリーに分けて分析しています。

- 1、結果ベースとした資金調達
- 2、触媒的資金調達
- 3、インパクト投資
- 4、社会的責任投資
- 5、課税の新しいチャネル

2) 「課税の新しいチャネル」の位置づけ弱く

さて 5 番目の“NEW TAXATION CHANNELS”を見てみると、冒頭「今後、国際課税と国内課税は、保健のための資金源として急速に拡大していく可能性があります」と述べられていますので期待してみました。“Domestic health taxes”(国内課税)ではタバコ税、アルコール税、砂糖税を挙げ、“International Solidarity Taxes”(国際課税)では航空券税、金融取引税、炭素税、超富裕税が挙げられています。

しかし、後者では航空券税が 9 か国でしか実施されていないこと、また金融取引税(FTT)については 2013 年に欧州 11 か国が実施しようとしたが議論が長期化し、合意を難しくしている、という現状が報告され、何とも国際課税の打ち出しが弱い記述になっています。

その上で、報告書は「国際連帯税は、SDG3 のための資金調達を増やすことができますが、その実施には世界的なリーダーシップと国際的な調整が必要であり、それを達成するのは難しい場合が多いため手間がかかる」と述べています。一方で、「国際連帯税の可能性は運用面や政治面での大きな障壁を克服する必要があるが、ODA を強力に補完できる大きなチャンスでもあります」、と。何か煮え切らない書き方をしています。

ちょっと疑問なのは、FTT に関して最新情報が述べられていないことです。それは、①欧州における 94 兆円にも上る復興基金の(償還に充てる)原資として FTT 実施が企図されていること(2024 年から、まだ具体化はされてない)、②米国ではバイデン新大統領が誕生することになりますが、副大統領のカマラ・ハリス氏や米行政管理予算局(OMB)局長のニーラ・タンデン氏等有力指導者が FTT 推進派であり、早晩新政府の経済政策に FTT 実施が上ってくる可能性があること、です。

ともあれ、民間セクターの資金の利用は、どうしてもリターン問題がネックであり、採算を度外視して援助しなければならないプロジェクト等(ワクチン開発や難民救援等)に対しては、公的資金となる国際課税の方が有効であることは間違いがありません。

3) 国際連帯税を放棄した日本外務省

リーディング・グループの一員でもある日本政府(外務省)は実に困ったことに 11 年連続して新設要望していた国際連帯税要求を断念してしまいました。これはコロナ禍にあって感染症対策で困難に陥っている途上国への支援のための大きなリソースを放棄することに等しいといえます。

まして昨年夏まで前外務大臣が国際会議の場で散々国際連帯税の必要性を訴えてきたという経緯にもかかわらず、一方的に放棄してしまうということでは、国際社会にどのように言い訳をするのでしょうか。外務省は改めて国際連帯税の旗を掲げ直すべきでしょう。

2020 年 12 月 18 日

合同議員連盟総会の開催

12 月 15 日(火)に、国際連合食糧農業機関(FAO) 議員連盟・国際連合世界食糧計画(WFP) 議連・国際母子栄養改善議連合同総会が行われました。

日本リザルツからは白須代表が参加し、来年開催予定の「東京栄養サミット 2021 に向けて」というテーマで議論を行ってきました。

各省庁や様々な関係者と、現状報告やサミットのアジェンダについて、実りある議論を交わしてきました。

来年の東京栄養サミット 2021 の成功に向けて、これから益々盛り上がっていきそうですね！

GGG+小フォーラム 2020 UHC と SDGs の実現に向けて(特集)

GGG+小フォーラム 2020：準備編

2020 年 12 月 17 日(木)は、本来なら成長のための栄養(N4G)サミットの開催日でした。この日に合わせて、「GGG+小フォーラム 2020 UHC と SDGs の実現に向けて」が開催されました。

今回は、準備の様子をお伝えいたします。

いつもご協力下さっている外部の方々が、仕事帰り、数日に渡って、応援に来て下さいました。

前日は、夜 22 時近くまで、全員一心不乱で資料セットに追われていました





当日まで差し替えが何度もあり、皆様のご協力がなければ、終わりませんでした。応援団の皆様への感謝の気持ちで一杯です

GGG+小フォーラム 2020：開催当日の準備編

開催当日、スタッフ、及び、日頃よりご協力いただいている関係者の皆様は、会場へ朝8時に集合し、準備を行いました。こちらは開催2時間前からの様子です。



看板と横断幕の設置が完了（作業中の写真がなく残念）



新型コロナウイルス対策のための消毒・アクリル板も準備万端です。



朝一番の打ち合わせが始まりました。白須代表の説明に耳を傾けています。

40名の人数制限を保つため、どこのセッションで誰が外へ出るかをリストをもとに確認します。

会場となったお店の方々には、本当にお世話になりました。

いつも日本リザルツにご協力いただいている皆様です。
タイムマネジメントと録音についてご相談されている模様です。

総司会のインターンさんが第1セッションのファシリテーターの方と最終の打ち合わせをしています。

受付では、日本リザルツ最強の応援団のお二人が準備中。
ちなみに、受付の机は、餃子をモチーフにした形をしています。

一番奥の M 氏は、Africa 子どもサミットでお披露目された
「TEWO-ARAO」の演出家です。

2 回目の打ち合わせでは、最新のシナリオを確認します。

外では、副代表と職員 2 名が皆様をお迎えします。
寒さの中、コロナ対策の黄色い紙を用いて、開催を待つ参加者の皆様へご説明中です。

さあ受付開始です。



GGG+小フォーラム 2020：

総合司会をさせていただきました

12月17日(木)に行われた GGG+小フォーラムで、総合司会をさせていただきました！
当日までは、楽しい気持ちと共に、自分に司会の大役を果たせるのかどうかという不安がありました。しかし、リザルツのスタッフの皆さんや、それぞれのセッションの司会者の方にも助けていただきながら、大変稚拙ではありましたが、最後まで司会を務めあげることができました。各分野の第一人者が集まるハイレベルなフォーラムで、このような貴重な体験を積ませていただき、感謝しかありません！いつかは、自分が GGG+に登壇者として参加できるような、社会で活躍できる人材に成長してまいります！



2020年12月22日～23日

GGG+小フォーラム 2020：

第1部 GGG+セッション

第1部の GGG+セッションの様子をご紹介します。

結核予防会の小野崎郁史先生の司会で第1部が始まり、各省庁や関係企業、学生も参加し、主に結核の現状やコロナ禍での保健分野について議論がされました。

まずは、会の開催に際し、内閣総理大臣補佐官の和泉洋人様から、日本の国際保健における役割と GGG+フォーラムに期待することについて、メッセージをいただきました。日本リザルツの20歳のインターン園田開が代読させていただきました。



続いて、厚生労働省正林督章健康局局长からコロナ禍での結核対策についてお話いただきました。



外務省国際保健政策室の江副聡室長からは、ご自身が中心となり携わられた2018年の国連総会結核ハイレベル会合からの歩みと今後の課題について、ご意見をいただきました。



ここからは結核抑止に向けた日本の技術の紹介です。大塚製薬の川崎昌則様からは、世界各国の多剤耐性結核治療に使用されている抗結核薬「デラマニド」の普及に向けた取り組みを紹介いただきました。



富士フイルム様からは、高橋映生様と守田正治様の2名でご参加いただき、尿を検体とする新たな結核診断キットの開発と国際機関との連携についてご発言をいただきました。



続いて、栄研化学の常務執行役の渡一様には、迅速結核診断機器の TB-LAMP の普及について、最新の情報を紹介いただきました。



ニプロの取締役である岩佐昌暢様からは、多剤耐性結核診断機器「ジェノスカラー」の開発に向けた取り組みと、GDF との連携可能性について、お話をいただきました。



JICA から、国際協力専門員の磯野光夫様と技術審議役の田中剛様より JICA における結核の事業について発表いただきました。



学生からもご意見をいただきました！



ACT アクセラレータについて、ビル&メリンダ・ゲイツ財団日本代表の柏倉美保子様から最新の情報を共有いただきました。



最後は、結核根絶の第一人者である結核研究所名誉所長の森亨先生にセッションの総括をしていただきました。

時間が足りないくらいの熱いセッションとなりました！



GGG+小フォーラム 2020：ランチセッション

続いてはブレイクセッションの紹介をさせていただきます。

国際母子栄養改善議員連盟の会長である山東昭子先生より、冒頭挨拶をいただきました。栄養が人の生き方を豊かにするためにも重要であると力強いメッセージを下さいました。



日本栄養士会会長の中村丁次先生からは、日本が低栄養、過栄養の双方を解決してきた稀な国であることを指摘され、日本の経験について紹介いただきました。



味の素社長の西井孝明様、栄養改善に向けた日本と世界での取り組みについて、最新の情報を共有いただきました。



慶應義塾大学教授の宮田裕章先生からも、ご自身の研究を踏まえたご発言をいただきました。



神田眞人 財務省国際局長には予算審議のお忙しい中、フォーラムにお越しいただき、保健分野の予算編成に携わったご経験をもとに貴重なご意見をいただきました。



キングス・カレッジ・ロンドン教授の渋谷健司先生、イギリスから駆けつけて下さいました。



このセッションを進行していただいたのは、慶應義塾大学の野村周平特任准教授です。ありがとうございました。



GGG+小フォーラム 2020：

第2部水と栄養、N4G セッション

第2部の水と栄養、N4Gセッションでは主に東京栄養サミット2021に向けた、各組織の進捗状況や課題について議論されました。

キングス・カレッジ・ロンドンの渋谷健司教授の司会で、セッションが開始されました。



まず、外務省地球規模課題審議官の小野啓一様より日本の栄養政策と課題についてお話いただきました。

続いて、農林水産省 大臣官房審議官の道野英司様が農林水産省での進捗状況について、発表して下さいました。



続いては、栄養のエキスパートである、厚生労働省健康局健康課 栄養指導室室長の清野富久江様のお話です。厚生労働省が取り組んできた栄養政策について紹介をいただきました。



菅総理大臣の故郷の秋田県から、秋田県東京事務所長の猿橋進様です。健康長寿日本一に向けた秋田県の取り組みに加え、秋田県特有の食生活についても報告をいただきました。



JICA 上級審議役の佐藤正様より、JICA がこれまでに取り組んできた栄養改善に関する事業と栄養サミットに向けた展望について、お話いただきました。



ノーベル平和賞を授賞された WFP からは、日本事務所代表の焼家直絵様にご出席いただき、コロナ禍での WFP の緊急食料支援の取り組みと課題について最新の状況を共有いただきました。



西野健 経済産業省参事官からは従業員の健康保持・増進の取組が、将来的に収益性等を高める投資であるという考え方＝健康投資、健康経営についてご紹介いただきました。また、河邑忠昭 財務省国際局 開発政策課長からは、SUN や GFF を通じた国際金融機関との連携について、財務省の取り組みを共有いただきました。



JICA 上級審議役時代に IFNA を設立された榎本雅仁様からは、栄養が体の健康だけでなく、心の健康、Well-being にもつながるという視点を紹介していただいた上で、栄養改善のためには、まずきれいな水へのアクセスが重要であるという貴重



なご意見をいただきました。

サラヤ株式会社の代島裕世取締役からは、サラヤがアフリカ等の途上国で実施する取り組みを通じて、手洗いと衛生の重要性についてご指摘いただきました。



学生からの意見もいただきました。

来年の東京栄養サミット開催に向けて、全体の士気が高まるセッションとなりました。



GGG+小フォーラム 2020:第3部学生・産業界・アカデミアによる栄養トークセッション

第3部では、官民学のクロストークが行われました。メインテーマは栄養で、ここでは、外国人留学生も交えた活発な議論が展開されました。



進行は、味の素グローバルコミュニケーション部の小笠原和子様です。

参議院議員で医師、前厚生労働政務官の自見はなこ先生よりご挨拶を頂戴し、栄養サミットと GGG+フォーラムへの期待を込めた温かいメッセージをいただきました。



外務省 国際協力局国際保健政策室 課長補佐兼国際保健専門官の稲岡恵子様から、東京栄養サミット 2021 の概要について、ご説明を頂戴しました。



続いて、日本リザルツの栗脇啓副代表と、元農林水産省・上智大学地球環境研究所リサーチフェローの榎本雅仁様から、N4G に向けて日本リザルツが作成した提言書のご説明をしていただきました。



東京大学教授 加藤久典様より、アカデミアの立場から栄養サミットと日本政府に期待することについてご意見いただき、国際栄養学会議等の最新の情報を共有していただきました。



外国人留学生の方々からも、日本、日本政府に求めることを次々に発言いただきました。



日本代表の学生からもどんどん意見が出ます。



ここからは民間からの意見です。まずは、東洋ライスの雑賀慶二様からは、日本食生活学会での発表を紹介していただきました。



DSM-Japan の丸山和則様からは、社が取り組む栄養のイノベーションについて発表していただき、官民連携への期待を込めたメッセージをいただきました。



サントリーホールディングス 青木幹夫様から、サントリーの最新の栄養改善に向けた事業についてお話いただきました。



そして、厚生労働省顧問・前医務技監の鈴木康裕様より、栄養改善に向けたモメンタムを高めるために、GGG+フォーラム、そして、日本リザルツに期待することについてご自身の経験を踏まえて、お話を頂戴しました。



最後に、日本栄養士会長 中村丁次先生から、日本の経験と知見を踏まえて、このセッションの総括をしていただきました。



マルチアクターによる栄養トークは、実りあるものとなりました。

GGG+小フォーラム 2020：

第4部教育セッション

第4部では、ウィズコロナ時代における教育分野の課題や、これからの教育の在り方等を議論しました。



前 JICA 上級審議役で、現在は JICA 理事長特別補佐の戸田隆夫様に、司会を務めていただきました。



世界銀行国会議員連盟の会長である三原朝彦先生からは、ご自身の長年の活動をもとに、コロナ禍でも教育を継続させるために日本のリーダーシップが重要であるという、力強いお言葉をいただきました。

ここで、栗脇啓 日本リザルツ副代表より、教育分野における官民連携の可能性について問題提起をしました。



まずはアカデミアから。米倉誠一郎 法政大学教授より、コロナにおける教育分野の課題について触れていただいた上、世界で教育分野でのイノベーションが重要であることを、ご自身の研究をもとに発表していただきました。



日本医師会名誉会長 横倉義武先生が福岡からこの会のために駆けつけて下さいました。浅野理事長と親交の深かった横倉先生から温かいメッセージをいただきました。



続いて、教育と探求社の宮地勘司様から、公教育のあるべき姿についてお話いただきました。



公文教育研究会 井上勝之様より公文の取り組みを紹介いただいた上、教育は「生きる力を育てる」ために必要であるというインパクトのあるお言葉を頂戴しました。



日本財団の和田真様からは、日本財団がミャンマーで取り組む少数民族への教育支援についてお話いただきました。



アジアの次はアフリカです。ササカワ・アフリカ財団 花井 淳一様からは、財団が実施するプロジェクトを通じて、農業教育が栄養改善につながっていることを紹介いただきました。



保健分野でも教育は必要です。琉球大学教授 小林潤先生から、ご自身の研究をもとに、国際保健の現場における教育啓発活動の重要性についてご意見をいただきました。



アイ・シー・ネット都築昌子様からは、パプアニューギニアにおける教科書の導入をもとに、教育のイノベーションには産学官の連携が欠かせない旨をご提案いただきました。



電通から野村朗子様、パラリンピックに向けた電通の取り組みを通じて、パラスポーツの教育的意義についてお話を頂戴しました。



ミラボ 谷川一也様から、教育と IT の連携可能性について発表していただきました。



このセッションの総括は、外務省 地球規模課題総括課 上席専門官の高杉直子様よりいただきました。日本の教育政策と国際社会での取り組みについても紹介いただきました。



最後は子どもたちによる手洗いダンスです。会場の皆様全員と、正しい手の洗い方を学びました。

子どもたちのかわいいダンスで、場が和みます。

長丁場の議論でしたが、皆さん疲れが吹き飛んだようです。



GGG+小フォーラム：

浅野理事長と横倉日本医師会名誉会長

閉会では、2019年8月29日に開催された「GGG+フォーラム@TICAD7 女性と子どもにやさしいフォーラム」での浅野理事長の発言を皆様に披露させていただきました。いつ読んでも素晴らしい発言をされており、本当に感銘を受けております。特に「国益はもちろん大事だと思いますけれども、もっと大事なものがある、それは全世界、全地球を愛するという事だと思います」の言葉が一番好きです。

閉会の前に行われた4部の終わりの方では浅野理事長と仲良しだった横倉日本医師会名誉会長から浅野理事長を偲んでご発言をいただきました。横倉名誉会長は福岡在住でいらっしゃるため、今回は出席依頼は控えたのですが、ご厚意で参加くださいました。大変ありがたいことだと思います。





GGG+小フォーラム 2020：閉会

閉会にあたり、今年の8月12日に亡くなられた故浅野茂隆理事長が、昨年のGGG+フォーラムで披露された最後のメッセージを、日本リザルツの門井絵理子が代読いたしました。

また、日本リザルツ代表の白須紀子からも、コロナ禍に関わらず、お集りいただいた皆様に感謝を申し上げます。

最後は、味の素ファンデーション専務理事 重宗之雄様より閉会の挨拶を頂戴し、盛会のうちにフォーラムを終えることができました。



ご参加いただきました皆様、会場関係者の皆様、応援団の皆様に、スタッフ一同、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも、日本リザルツをよろしくお願い申し上げます。

GGG+小フォーラム 2020：開催のお礼

平素より日本リザルツの活動にご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
GGG+小フォーラム 2020 は、12月17日(木)に開催され、盛会に終わることができました。
今回のフォーラムはコロナ禍での開催ということで、40名入れ替え制で行いました。初めての経験で、会場スタッフを含め戸惑うことがたくさんありましたが、皆様のご理解とご協力のもと、終了いたしました。

当日、会場準備から運営にご協力いただきました GYOZA IT.様、味の素関係者の皆様、誠にありがとうございました。

ご登壇いただきました皆様につきましても、寒い中またコロナ対策を徹底しなければならぬ中でご参加いただき、心から感謝申し上げます。

2020年12月18日～20日

どーらの秋田弾丸ツアー①

GGG+小フォーラムも盛会のうちに終わり、年末にむけ、ほっとひと息…

といきたいところですが、我らが霞が関の魔法使いどーらの勢いは止まりません。

なんと、東京を飛び出し、突撃戦隊栄養レンジャーの皆さんと一緒に秋田県に弾丸出張中です。

なまはげがお出迎えしてくれました。



最初に訪れたのは、秋田県庁健康福祉部。

秋田県は来年9月に開催する全国食生活改善宣言大会に向け、準備の真っ最中です。



県内の栄養改善に向けた取り組みを活性化させるために意見交換を行いました。

続いて訪問したのは、秋田栄養士会。

栄養士会長、常任理事と面談です。秋田県に管理栄養士養成課程を作れないか？というような新しいアイデアも出ました。



日本列島は寒波が来ており、秋田も豪雪のようですが、寒さを吹き飛ばすような、熱い議論を繰り広げているようです。

まだまだ、どーらの進撃は続きます。

どーらの秋田弾丸ツアー②

GGG+小フォーラム終了後、秋田を訪問中の霞が関の魔法使いどーら。今回は頼もしい助っ人、突撃戦隊栄養レンジャーの皆さんと一緒にです。来年の GGG+フォーラムは菅総理大臣の出身の地でもある秋田で開催を計画しています。ということで、今回は会場の視察も実施しました。

訪れたのは、秋田でも老舗のホテルとして名高い秋田キャッスルホテルです。

装飾もすっかりクリスマス模様です。

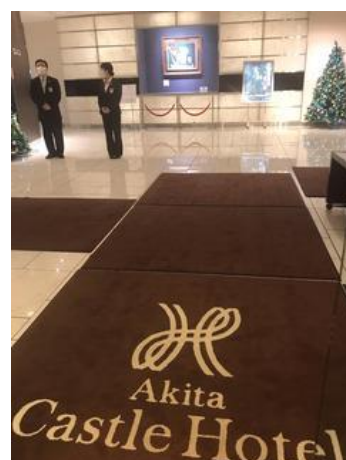
すぐさま、支配人の方と打ち合わせを進めます。

夕方になっても勢いは止まりません。

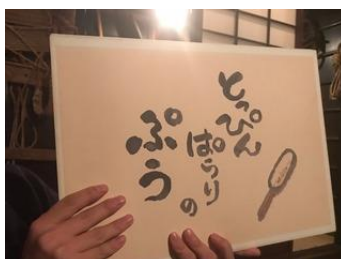
秋田テレビの石塚真人社長との面会では、社長が長年骨髄バンクの支援を行っていらっしゃるということで、どーらとすぐに意気投合。非常に盛り上がったようです。

飽くなきまでの食への探究心をお持ちの栄養レンジャーの皆様。

この日のディナーは秋田県の郷土料理、きりたんぼ鍋です。きりたんぼ鍋に使われているのが、魚醤(しょつつる)です。しょつつるは、ハタハタという魚を栄養とうま味を発酵させた調味料で、冷蔵庫がなかった時代にハタハタの美味しさを少しでも長く味わいたいという先人の知恵から生まれました。まさに日本食のサステナビリティと Mottainai 精神を体現しています。



どーらも美味しいお鍋でエネルギーを満タンにし、とっぴんぱらりのぷう（秋田の方言でめでたしめでたし）で1日目の日程を終えたようです。寒波を完膚なきまでに吹き飛ばすどーらの進撃は、明日も続きます。



どーらの秋田弾丸ツアー③

現在、突撃戦隊栄養レンジャーの皆さんと秋田弾丸ツアー中の霞が関の魔法使いどーら。土日もアグレッシブに活動を続けています。

当初は、菅総理大臣の出生地である秋田県湯沢市を目指す予定だったのですが、日本は目下、記録的な大雪。秋田でも大雪の影響で道が寸断されています。

さすがに1メートル近い積雪にはどーらも勝てず、本日は見合わせるようになりました。

というわけで、向かったのは、国際教養大学です。

この大学は、2004年に開設された比較的新しい公立大学ですが、少人数教育、多文化共生キャンパス、海外留学制度等、これまでの日本の大学にない仕組みを次々に取り入れ、世界に羽ばたくグローバルな人材を続々輩出していることで注目を集めています。教育ママで知られるどーら。興味深く学校の取り組みを視察したようです。

栄養レンジャーの皆さんと。



秋田といえば、秋田犬（あきたいぬ）が有名ですね。

新型コロナウイルス抑止のチャンピオンとして、ワンちゃんが活躍していました。

さて、今年は新型コロナウイルスで外出が思うようにできず、運動不足になった人も多いのではないのでしょうか。また、ストレス等によるメンタルヘルスへの影響も指摘されており、コロナから派生する二次的な健康問題も深刻です。

秋田は日本でも有数の豪雪地です。毎年冬になると家での生活を強いられる秋田県の皆さんは、どのように自宅で健康維持を図っているのか？秋田の皆さんの知見と経験は、コロナ禍の健康対策に活かせるかもしれませんね。どーらと栄養レンジャーの皆さんの快進撃はまだまだ続きます。



どーらの秋田弾丸ツアー④

突撃戦隊栄養レンジャーの皆さんと秋田弾丸ツアー中の霞が関の魔法使いどーら。豪雪を吹き飛ばす勢いで活動をしています。

一面、銀世界です。

車からの写真も雪、雪、雪だらけです。

この日は秋田市内から車で30分の秘境にやってきました。

温泉でリフレッシュして英気を養います。



秋田犬にも大人気の栗脇副代表。

そして、なんとこの旅館には古民家宿泊プランがあるということ。最近、全国的に古い建物を再利用した古民家に泊まるスタイルが、海外からの旅行者に人気を集めています。

来年6月のGGG+フォーラム

は秋田で開催を予定しているので、外国からのお客様へのおもてなしに最適かもしれません。



この日やってきたのはノースアジア大学。

敷地内にある秋田栄養短期大学は栄養士の養成に力を入れる、まさに秋田の栄養教育の中心地で、どーらも興味津々だったようです。



そして、旅の最後は栄養レンジャーブラウン、茶（チャ）レンジャーこと日本リザルツ栗脇副代表のお誕生日会です。

ケーキを前にどーらと記念撮影…あれ！？！？

右が本物バージョン。左の写真は、今流行りのFaceAppで編集されたものでした。本物もダンディーで素敵、そして誰よりも栄養教育に熱いパッションをお持ちの栗脇副代表。お誕生日おめでとうございます！



皆さんも素敵なクリスマスをお過ごしくださいね★

どーらの秋田弾丸ツアー⑤

さてさて、どーらの秋田弾丸ツアーもこれが最終回。
来年の GGG+フォーラムの会場と日程を弾丸で即決。



大雪の中、無事にすべての突撃を終え、秋田新幹線で帰路についているようです。

きりたんぽ、比内地鶏、いぶりがっこ。秋田には美味しい郷土料理がたくさんあります。

栄養レンジャーの皆さんも色々なお料理を堪能されたようですが、どうやら味付けが濃く、量もかなりがつつりしている印象を持たれたようです。

秋田県は砂糖消費量、食塩消費量が全国で3位。甘じょっぱい、濃い味付けが生活習慣病の原因となっているようです



高齢化率が全国一ということもあり、県として、栄養改善に積極的に取り組む秋田。すべての皆さんが健康に暮らせる社会を目指して、秋田の経験と知見を、今後の栄養への取り組みに活かせるよう、栄養レンジャーの皆さんとともに歩んでいきたいと思っています。

ちなみに栗脇副代表と両想いだった写真の秋田犬。

タイガ君というお名前でなんと、ロシアのプーチン大統領に贈られたユメの弟で、フィギュアスケートのザギトワ選手に送られたマサルのいとこという、由緒あるお家の出身のよう



です。

「アキタ=ケン」 コウ・日本一（秋田健康・日本一）のチャンピオンに如何でしょうか。

どーらの秋田弾丸ツアー(番外編)

まだまだ元気な突撃戦隊栄養レンジャーの皆さん。

道中、秘蔵のお写真が送られてきましたので、番外編でご紹介させていただきます。

こんな大きな狸に遭遇。

こちらはオフショット。どーらから掲載オーケストラ！をいただきました。



さてさて、レンジャーが結成されたということで、ブラウン、ブルー、ホワイート等皆さんお好きな色を選んでいらっしゃるようです。

こちらはホワイートレンジャー。こんな感じでしょうか？



ちなみにどーらが選んだのは「ブラック」。

ブラックレンジャーを調べると…

おや？なんだか、厳つい感じの出で立ちですね。そして強そうです！



栄養サミットに向けて、突撃戦隊栄養レンジャーの皆さんの活躍が、今から楽しみです
ね！



2020 年 12 月 22 日

秋田犬 マサルちゃんとタイガ君、 プーチン氏のユメちゃん

秋田プロジェクトで出会った、秋田犬のタイガ君は、ザギトワ選手に寄贈されたマサルちゃんのいとこ、プーチン氏に寄贈されたユメちゃんの弟です。
こちらへ、勢ぞろいの写真をアップします。

秋田県でマスクの PR 犬



ザギトワさんとマサルちゃん



タイガ君（秋田ツアーにて）



プーチン氏とユメちゃん



ADB が日本と連携し、 水と保健衛生への支援拡大

日本リザルツが取り組みを進める、水と衛生分野。今日は興味深いニュースが飛び込んできました。

アジア開発銀行(ADB)が、水と保健衛生(WASH+H: Water and Sanitation, Hygiene + Health)のアプローチを拡大し ADB の各種プロジェクトに取り入れ、特定の開発途上加盟国における新型コロナウイルスの感染予防と拡大防止策を支援するため、200 万ドルの技術協力向け無償資金支援の実施を承認したということです。

この 200 万ドルの無償資金は、日本政府が拠出する貧困削減日本基金から提供されるということです。技術協力は、日本のこれまでの知見を活かし、特に保健医療や教育、社会的保護等の社会セクターおよび水や都市セクターにおける ADB のプロジェクトに資金を提供し、水供給や公衆衛生、廃水管理やごみ処理の分野に重点的に取り組むそうです。

新型コロナウイルスを含めた感染症の抑止には、きれいな水と衛生環境の改善が必要不可欠です。日本と ADB の更なる連携強化を期待しています。

2021 年度予算案が閣議決定

早いもので本年も残すところ、あとわずかとなりましたが、皆様、如何お過ごしでしょうか。

さて、つい先日、2021 年度の予算案が閣議決定されました。

当初予算は、一般会計の総額が過去最大の 106 兆 6,100 億円程度となり、国債発行が 11 年ぶりに増えました。

また、第三次補正予算も概要も同時期にわかりました。

日本リザルツが関係する国際保健の分野では

グローバルファンドに 2021 年当初予算で 80 億円、2020 年第三次補正予算で 120 億円

Gavi アライアンスに 2021 年当初予算で 11 億円、2020 年第三次補正予算で 99 億円

相当のコミットメントが計上されていました。

また、どーらが力を入れている栄養改善やパレスチナ難民支援の分野でも、予算計上されていました。

コロナ禍において、各国がワクチン確保等の自国第一主義＝ワクチンナショナリズムを掲げる中、途上国も含め全ての人にコロナワクチンの供給を目指し、あらゆる国際会議でその意味を提言されている菅総理大臣。総理のますますのリーダーシップを期待しております。

ともあれ、予算も閣議決定されたので、我らの魔法使いどーらも安心して年を越せそうですね。

介護の仕事はカッコいい。介護にプライドを

介護の魅力を発信するプロジェクト「KAiGO PRiDE(介護プライド)」をプロデュースするインド出身のクリエイティブ・ディレクター、マンジョット・ベディさん(51)が撮影した写真が話題となっています。

「介護の仕事はカッコいい。日本が世界に誇ってよい技術だ。アートの力で介護職の方々に自信を持とうと伝えたかった」とマンジョットさんは訴えています。

特に印象的だったのが「日本の介護は KAIGO として世界にも通用する」というメッセージです

マンジョットさんの写真展は、新型コロナ感染拡大の影響で延期になったが、全国にプロジェクトの輪を広げていく予定です。

そういえば先日、どーらと突撃戦隊栄養レンジャーの皆さんが訪問していた秋田県は高齢化率が日本一です。日本リザルツが計画を進める秋田プロジェクトとの連携も期待できそうですね。

駐米大使に富田氏が就任

外務省は、25 日、杉山晋輔前駐米国大使の後任として富田浩司駐韓国大使を、新たな駐米大使として任命したことを発表しました。米民主党に人脈を持つ富田氏を起用することで、来年 1 月に発足するバイデン次期政権との関係構築を急ぐのが狙いのようです。

尚、政策通としても知られる冨田新大使。霞が関の魔法使いどーらとも親交が深く、以前、面会した際には、『マーガレット・サッチャー 政治を変えた「鉄の女」』という御本にサインをいただいたそうです。

『危機の指導者 チャーチル』も面白かったです。どーらともども、ますますのご活躍を楽しみにしています。

訃報：羽田参議院議員が死去

立憲民主党の参議院幹事長でユニセフ議員連盟の事務局長を務められていた羽田雄一郎参議院議員がお亡くなりになりました。53 歳でした。

羽田先生は、羽田孜元総理大臣のご長男で、平成 11 年の参議院議員の補欠選挙で当選されると、旧民主党政権時代の野田内閣では国土交通大臣を務める等、要職を歴任されました。今年 9 月からは、旧国民民主党から立憲民主党に合流し、党の参議院幹事長を務められていました。

日本リザルツの初代理事長である羽田義久氏ともご親戚の関係にあり、白須代表とも親交が深かった羽田先生。ユニセフ議員連盟の事務局長を務められる等、貧しい子どもたちの健康改善に向けて、感染症抑止や水と衛生、栄養、貧困削減等の分野に熱心に取り組まれていました。

2018 年に開かれた「適切な栄養をすべてのお母さん、子どもたちに！」と題した関連議連の合同シンポジウムでは、司会を快く務めてくださったことを覚えています。

新型コロナウイルスの問題の長期化が見込まれる中、子どもたちが健やかに暮らせるよう、更なるリーダーシップの発揮を期待していた矢先のことで、言葉も見つかりません。日本リザルツ一同、心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

2020 年 12 月 29 日

年末のご挨拶

いつも日本リザルツを応援してくださっている皆様、
歳末の候、ますますご清栄とお喜び申し上げます。また、平素より、日本リザルツの活動に格別のお引き立てを賜り、心よりお礼申し上げます。

お陰様で、12 月 17 日(木)に開催された GGG+小フォーラムも盛会のうちに終わることが出来、無事に年の瀬を迎えることができました。コロナ禍において、感染に最大限配慮しつつ、このような場を設けることができたのは、皆様のお力添えのお陰です。



加えて、12 月 10 日付のネイチャー誌に日本リザルツの栄養教育への取り組みに関する記事が掲載されました。

栄養(N4G)サミットが日本で開催されます。コロナ禍において、栄養のオリンピックを成功させるためには、記事でも指摘しております通り、日本の知見を存分に生かし、オールジャパンで保健政策に取り組む気運を高める必要を感じております。日本リザルツでも提言文を作成し、関係各所にアドボカシーを行っております。

栄養のオリンピックに先駆けて、2021 年 6 月 7 日(月)に、菅総理大臣の出身地である秋田県で GGG+フォーラムを実施する予定です。

つきましては、1 人でも多くの皆様にご参加いただき、栄養サミットはもちろん、GGG、R&D、コロナ、官民連携、栄養、水と衛生、教育等、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けて、闊達な議論を繰り広げられれば幸甚でございます。



ちなみに、突撃戦隊栄養レンジャーも大活躍する予定ですので、楽しみにしててくださいね！

来年も相変わらぬご愛顧をいただけますようお願い申し上げます。どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。

日本リザルツ 霞が関の魔法
使いどーらこと、代表 白須紀子



タイガと仲良し、副代表 栗脇啓



2020 年 12 月 30 日

ポスト・コロナのわが国の国際保健外交に 向けた提言

先日、自民党が「ポスト・コロナのわが国の国際保健外交に向けた提言」をまとめ、菅総理大臣に提出されました。

提言によりますと、世界共通の課題となった健康危機の再来に備えるためにも、今こそ保健分野に格段の重点を移しながら、日本の ODA 全体の戦略的な在り方を再検討することが必要であると指摘した上で、政府全体のグローバルヘルスの戦略に適切に盛り込まれるよう、以下の 6 つの提言を行っています。

- (1) 司令塔機能の明確化・強化
- (2) 新たなグローバルヘルスの貢献目標の設定
- (3) 「戦略的」選択と集中
- (4) マルチとバイの連携強化
- (5) 国内外 NGO 等とのパートナーシップ強化
- (6) グローバルヘルスの変化に応える革新的人材の育成強化

この提言がどのように日本の ODA 政策に反映されるか、今後の動向を注視していきたいと思います。

2020 年 12 月 31 日

いよいよ年の瀬

ケニアは昨夜からバケツをひっくり返したような大雨で、正に怒涛の 2020 年を象徴するようなお天気の最終日となっています。日本は数年に一度と言われる大きな寒波が来ているようで、各地で大雪のようですね。

教育ママのどーらの叱咤激励？のもと、スタッフたちは、ADB の保健分野に関する分析と提言について英訳をしたり、米国農務省(USDA)と保健福祉省(HHS)が改訂した栄養のガイドラインを読み込んだり、先日菅総理大臣に手交された ODA 提言書を分析したりと充実した年末を過ごしているようです。

尚 USDA のガイドラインのポイントですが、4 つの視点から、アメリカ人に「一口一口をカウントする」ことを奨励しているのが特徴です。

4つの視点は以下の通り：

1. すべてのライフステージで健康的な食事パターンに従う。
2. 個人の好み、文化的伝統、予算を考慮して、栄養価の高い食品や飲料の選択をカスタマイズして楽しむ。
3. 野菜、果物、穀類、乳製品および大豆を主原料にした代替品、タンパク質の5つの食品群から栄養価の高い食品および飲料を選び、カロリー制限の範囲内で食品群のニーズを満たすことに重点を置く。
4. 糖分、飽和脂肪、ナトリウムを多く含む食品や飲料を制限し、アルコール飲料を制限する。

USDA は、ガイドラインをもとに「マイプレートでシンプルに始めよう」キャンペーンを実施し、ウェブサイトを更新。個人、家族、地域社会が、慢性疾患の予防に加えて、簡単で、アクセスしやすく、手頃な価格で健康的な食事の選択ができるよう支援するそうです。

では、皆様も健康に気を付けて、よいお年をお迎えくださいませ。